

題材名 『光と色のファンタジー』 つくりたいものをつくる**題材について**

1 題材について

(1) 指導目標について

第3学年及び第4学年の目標は「(1)豊かな発想や創造的な技能を働かせ、その体験を深めることに関心をもつとともに、進んで表現する態度を育てるようにする。」「(2)材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、つくりだす能力、デザインの能力、創造的な工作の能力を伸ばすようにする。」である。また、この目標を受けて、指導内容が表現A(2)の「ア「表したいことを表すために、形や色、材料などを生かし、それらの組み合わせの感じに関心をもち、美しさや用途などを考え、計画を立てるなど、工夫して表すこと。」「イ「表したいことに合わせて、前学年までに経験した材料や用具、板材などの特徴を生かすとともに、手を十分に働かせて水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎりなどの用具を工夫して使い、絵や立体に表したり、つくりたいものをつくりだすこと。」と構成されている。本題材は、これらの目標と内容を受けて設定したものである。

(2) 題材について

本題材は、色セロハンを通った光がトレーシングペーパーによって柔らかく美しい感じになることを知り、光と影の美しさを生かして好きな飾りをつくる内容である。はじめに、空き箱を表したい形に切り抜き、トレーシングペーパーを貼る。そこへ片面段ボールや厚紙、透明シートで好きな形をつくり、断面接着をして表したいものの形をつくる。さらにそこへ色セロハンを貼る。この時光に透かして色合いを考えながら、貼る位置や重ね合わせる量を変えながら、自分の気に入った色調を見つけていく。

子どもたちは、普段の生活の中で光と影が生み出す美しさを見つけてくる経験（鏡や水に反射する光、様々に変化する影のおもしろさ等）をしてきている。この経験をもとに、子どもたちは本題材で「光の透過の美しさ」に気づいていく。光を美しく透過する材料はペットボトルや瓶などの透明容器、色ガラス、お菓子の包み紙など身近にたくさん見られる。この題材では、主材料として色セロハンを使う。これに光を当てたときに映し出される光の美しさだけでなく、色セロハンを通して不思議な色の世界など、色セロハンを使うことの楽しさを感じ取りながら表現活動に取り組むであろう。また、いくつかの色セロハンの重ね合わせや光を半透過する材料との組み合わせによってもその織り成す色調も変化していく。特に、色セロハンの光をトレーシングペーパーに映し出すことによって柔らかい感じの光になることで、子どもたちはその美しさに引き込まれるにちがいない。このような特徴をもつ色セロハンと身近な材料とを組み合わせ、辺りにそっと飾りたくなるものをつくる表現活動に旺盛な興味を示すであろう。

したがって、本題材は、子ども一人一人が、これらの特徴を様々に生かすとともに、自分の興味・関心を生かしてもっている力を主体的に働かせながら、表現したいものを見つけて表し方を構想したり試行錯誤したりすることができると考えた。そして、作品をつくりだす楽しさに浸って、自分の思いをのびのびと表現することができる題材であると考えた。

2 子どもについて

中学年の子どもは、材料などを使って表すことに一層関心をもつようになるとともに、想像力を働かせ、表し方を工夫することに意欲を示すようになる。また、友達との関係も深まり、友達の造形的な発想やアイデアが他の子どもに広がり、表し方などを互いに紹介し合う姿も見られる。

吉田学級の子どもたちは、造形活動に概ね関心をもち、友達とよりよくかかわりながら意欲的に取り組んでいる。これまで、「絵に表す」ことの題材『色と形の絵の具遊び』では、自分の好きな色を水彩絵の具で作って、抽象的な形を各自の造形感覚や感性に合わせて描く楽しさや快さを味わう経験をしている。また、造形遊び『長い紙、つくって』では、いろいろな切り方で細長い紙をたくさんつくり、それらの長さや量、触り心地などを感じ取りながら発想を広げ、思いついた活動に取り組んだ。ここでは、自分の身を飾る材料に用いたり、教室の広い空間を飾ったりするなど、自分なりの遊び方を工夫して楽しんだ。これらの造形活動を通して、子どもたちは、思い思いに表したいことを見つけ、これまでの経験をもとにしながら、身近な材料を組み合わせたりして色や形で表すことを楽しむ姿が多く見られた。

そこで、この題材においても、子ども一人一人がこれまで培ってきた想像力や造形感覚、技能などを一層発揮するとともに、友だちとよりよくかかわり合いながら新たな表現の工夫や試みをし、自分の思いをよりよく追求していこうとする力も生かしながら、表現活動に主体的に取り組むことを期待したい。

3 指導にあたって

この題材の指導過程全般を通して、子ども一人一人にはっきりとした思いをもたせ、目的意識を高めていくようにしたい。そこで、指導過程の各段階において、下記に記す事項を重点とし、子どもたちがトレーシングペーパーや色セロハンを使って光と影の美しさを生かした飾りをつくる造形的な活動の魅力と充実感を味わわせる。

着想・発想段階では、子どもに色セロハンとトレーシングペーパーを渡し、光の美しさや楽しさを実感させる時間を設定する。そして、造形遊び的な活動を取り入れて材料の特徴を十分につかませるとともに、参考作品を「鑑賞」する。そのことにより、これからの活動に対する関心や意欲を高めていくようにしたい。「鑑賞」の際は、みる視点を板書等の位置付けにより明確にするとともに、多様な発見やイメージを共感的に受け止めるよう、一人一人の見方や感じ方を大切にしていきたい。

構想段階では、発想・着想段階で思いついたおおまかなイメージをもとにしながら、つくりたいものの思いをよりはっきりとしたものにする。その際、適宜に友達とイメージの交流の場を設けたり、扱う材料の様々な組み合わせ方等に試しにふれさせたりすることによって、つくりたいもののイメージをはっきりさせるヒントにする。特に、共通に学ぶ技法「カッターの使い方」「材料の接着の仕方」については、取り立てて指導を行い安全面に配慮していく。

表現段階では、子どもが互いに進める「鑑賞」や材料選択の場の活用を促すことによって、思いをよりよく表現させるようにする。制作過程の中で特に広めていきたい内容がある場合には、子どもの途中の作品や参考作品を取り立てて行う一斉の「鑑賞」も適宜に位置付けていく。

鑑賞段階では、色セロハンの特徴が生かされるような作品の展示の仕方を工夫して、自分や互いの作品のよさを味わわせる。ここでは、一人一人の見方や感じ方をもとした作品を共感的に見合い、認め合うことができるようにしたい。

目 標

- 《 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度 》 色セロハンやトレーシングペーパーなどがつくる光と影の美しさやおもしろさを生かして、飾るものをつくることを楽しむようにする。
- 《 発 想 や 構 想 の 能 力 》 色セロハンやトレーシングペーパーなど材料の色や形の組み合わせを考えて飾るものを構想する。
- 《 創 造 的 な 技 能 》 気に入った美しい感じになるように、用具の扱いに慣れながら工夫してつくる。
- 《 鑑 賞 の 能 力 》 自分や友達の発想のおもしろさや作品のよさを味わう。

学習計画及び評価計画

学習段階及び主な学習内容		評価規準【評価の方法】	未達成の場合の手立て	
第1次【着想】(10分)				
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 全6時間扱い【本時4/6】 色セロハンを通った光がトレーシングペーパーによって柔らかく美しい感じになることを知り、光と影の美しさを生かして飾りをつくる。 </div>	トレーシングペーパーと色セロハンで作り出す光と影の美しさを知る。 ・材料との出会い ・材料へのかかわり	【関】 光の透かし具合をいろいろ試しながら材料とのかかわりを楽しんでいる。(活動の様子・つぶやき)	【関】 友達の意見や活動を参考にさせるとともに、具体例を示しながら材料にかかわらせていく。	
	第2次【発想】(15分)			
	参考作品を鑑賞し、色セロハンとトレーシングペーパーで表現する活動に関心をもつ。 ・参考作品の鑑賞 ・仕組みの理解 ・表現したものの簡単なイメージ ・言葉による簡単な書き留め	【鑑】 参考作品に関心を持ち、美しさなどの特徴に気づき、よさを味わっている。(学習カード・発言・表情)	【鑑】 「鑑賞」する際、視点を明らかにして参考作品をみさせるとともに、友達とのかかわりをもたせ、見方や感じ方を深めさせる。	
	第3次【構想】(20分)			
	試しながら色セロハンや形の組み合わせを考え、つくりたいものを決める。 ・用具の扱い方の習得 ・構想の交流 ・活動のふりかえり(イメージの深まり)	【発】 材料の特徴を生かしながらつくりたいものを決めている。(学習カード・活動の様子・発言)	【発】 偶然にできた色具合や形、模様などから、様々に見立て、友達との交流をもとにしながらできそうなものを考えさせる。	
第4次【表現】(210分)(本時45/210) 表現段階3時間目				
自分の表したいことを効果的に表現するように、美しさや材料の組み合わせを考えて、丁寧に表す。 ・自分の思いをもとにした表現 ・友達の作品や参考作品の「鑑賞」 ・構想の見直し ・活動のふりかえり(表現の深まり)	【創】 材料の組み合わせを工夫しながら、自分の表したいことを効果的に表現している。(活動の様子・作品) 【鑑】 友達の作品や参考作品からよさを学んでいる(学習カード・活動の様子)	【創】 友達の活動やアイデア、他の材料の提示等、具体的な提示と促しにより表現できるようにする。 【鑑】 適宜に友達とのかかわりを促し、自分の作品と比べさせたりする。		
第5次【鑑賞】(15分)				
互いの作品のよさを味わう。 ・互いの作品の「鑑賞」 ・活動のふりかえり(表現や活動のよさ)	【鑑】 自他の作品の発想や工夫等のよさをみつけ味わっている。(発言・学習カード)	【鑑】 鑑賞の視点をもとに、友達の様々な作品に目を向けさせ、比べながら見させていく。		

準備

教師：材料【厚紙，トレーシングペーパー，片面段ボール，色セロハン，接着剤】

道具【カッターナイフ，カッターマット】

児童：空き箱，定期，光を透過したり反射したりするときれいと思われる材料。

本時の指導

1 題材と子ども

本時は表現段階（3時間目）である。前時までの活動をもとにしながら，本時は自分の表したいことを効果的に表すことをめざす。そのために，友達や材料に積極的にかかわりながら，美しさや材料の組み合わせを考えてよりよいものを丁寧に表していくようにさせる。そのとき，初めにもったイメージがどんどん膨らみ，構想がまた変わり作品をつくりかえていく姿も積極的に認めていくようにしたい。

そこで，以下に示す具体的な手立てを講じながら，友達との相互のかかわりを一層促すことによって，友達のよさを味わい自分の思いを様々に発展させて自分の表現をよりよく追求することができるようにする。

（1）友達とのかかわりを促すグループ編成

子どもたち同士がより深くかかわりを持ち，子どもたちの中に自然に「鑑賞」が生まれ，イメージや表現活動に反映できるように，構想時にイメージしたものが近い人同士グルーピングをする。表現活動においても同様のグループで活動できるようにする。

（2）「鑑賞」の促し

子ども主体の「鑑賞」

興味をもった時，もっと知りたいことがあった時，自分の制作で行き詰まった時，ヒントを得たい時など，子どもの自主的な友達への働きかけにより，必要に応じて「鑑賞」できるようにする。

意図的な「鑑賞」

- ・授業の初めに，前時までに仕上げた途中の作品を「鑑賞」し，本時において何に焦点をあてて活動していくか明らかにできるようにする。

- ・活動の途中で子どもたちに特に気付かせたいよさ（心にあるものがよりよく形象化された作品，表現技法の工夫，新しい技法の発見等）が内包された，教師の作品や友達の作品を「鑑賞」する機会を適宜に全体の場で位置付ける。

（3）「ありがとうカード」の活用

活動の中で，「鑑賞」して気付いたよさを自分の作品のヒントとしたり，友達の作品と比較して自分の作品のよさを確かめたりしたことを，自分の言葉に置き換えて友達に伝えることによって，よさを一層味わうことができるようにする。

（4）「ふりかえりカード」の活用

自己の活動の変容（「鑑賞」による自分の思いの高まりや思いの実現に向けて上手くいったところ，上手くできるようになったこと等）を捉えさせる。「鑑賞」を通して，どのように自分の見方や感じ方が変化したのかを捉えることによって，次時の活動の見直しをはっきりともたせていく。

2 ねらい

（1）自分の構想に従い，材料の組み合わせを工夫したり，正しく用具を扱ったりして工夫してつくることができる。

（2）友達の作品の「鑑賞」を通してよさを味わうとともにそれらをもとに自分の作品をよりよく表現する。

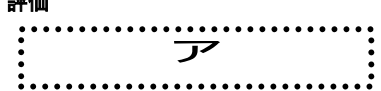

3 全体の評価計画

指導項目		学習段階					
		1	2	3	4	5	6
		着想・発想・構想	表現				鑑賞
ア	関心・意欲・態度						
イ	発想や構想の能力						
ウ	創造的な技能						
エ	鑑賞の能力						

4 評価規準 表現段階

基礎	指導項目	評価規準【評価方法】	A 十分に満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する<手立て>
ア	創造的な技能	【創】材料の組み合わせを工夫しながら，自分の表したいことを効果的に表現している。 【活動の様子・作品】	よりよいものをつくるために，様々な材料から試行錯誤しながら選びつくっている。	自分のつくりたいものに合った材料や用具を選び，つくっている。	友達の活動やアイデア，他の材料の提示等，具体的な提示と促しにより表現できるようにする。
イ	鑑賞の能力	【鑑】作品に関心をもち，色や形の組み合わせによる美しさなどの特徴に気付き，よさを味わっている。【学習カード・発言】	作品から材料，技法，美しさなどに関心をもち，自分の作品と比べながらみるとともに，よさを参考にしながら自分の表現を高めている。	作品から材料，技法，美しさなどに関心をもってみるとともに，それらのよさを味わい，感じたよさを友達に伝えている。	鑑賞する際，色具合，形等，造形的な視点を示し，作品を見させ，自分なりの見方や感じ方ができるようにする。

5 展 開 【45 / 210】(本時は表現段階 3 時間目)

学習活動と予想される子どもの反応	教師の支援と評価(・支援 仮説にかかわる内容 評価)	備考(準備物等)
<p>(1)全体 (3)</p> <p>学習課題を把握する。</p> <p>自分のつくりたいものをよりよくあらわそう。</p>	<p>学習カードや途中までの作品から前時活動を想起させる。いくつかの作品を提示し、それぞれの思いをみる視点(材料・色彩・構造等)に立って「鑑賞」させ、本時において何に焦点をあてながら活動していくが明らかになるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが制作した作品 ・ 学習カード ・ 前時までの子どもの反応の板書による位置付け
<p>(2)全体 (37)</p> <p>自分のつくりたいものに合った材料を選び、つくり方を工夫してつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なるように、色セロハンの重ね方を工夫してみよう。 ・ 色セロハンを重ねたら素敵な色になったよ。 ・ 片面段ボールの形をもっと変えてみよう。 ・ さんの色具合がすてきななあ。どうやるのかな。聞いてみよう。 ・ 接着の仕方が難しいなあ。さんの作品を見てみよう。 ・ わたしの上手にできた柔らかな色を見てみて。 ・ さんの作品は に見えるね。すてきななあ。 ・ ばくも さんのようにもう少し色を増やしてみよう。 	<p>興味をもった時、もっと知りたいことがあった時、自分の制作で行き詰まった時、ヒントを得たい時など、子ども自らの友達への働きかける「鑑賞」を積極的に認めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の表現を参考にして表現を深めたり、互いの作品を窓辺に展示しその仕上がり具合いや美しさを確かめたりしながら制作できるようにする。 <p>活動の途中、全体又は個に対して制作活動の可能性をさらに広げられるように、特徴的なものがある場合は制作途中の子どもの作品を適宜に紹介し、「鑑賞」する機会を適宜に全体の場で設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一斉における「鑑賞」を通して、子どもがよりよい表現活動ができるように、自らのイメージに合った表現方法・材料・技法等を選択できるように促していくようにする。 <p>評価</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ よりよい表現にするために、どの部分をどのように工夫するかはっきりと捉えながら活動を進めることができるように言葉かけを行っていく。 ・ 光と影の美しさがでるように、材料の組み合わせを試みる活動を促していく。 ・ これまでの活動に引き続いて、いくつかの材料を準備し、自分の表現に応じて自由に選択できるように場の設定を行い、よりよい表現の実現のための一助とする。 ・ 用具については、資料を提示することによって正しい扱い方について理解させるとともに、具体的に指導することによって安全面に配慮する。 <p>評価</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の記録 ・ 学習課題の提示 ・ 材料や用具選択の場(色セロハン、トレーシングペーパー、身辺素材、カッター、カッターマット等)
<p>(3)全体 (5)</p> <p>活動をふりかえり、これからの活動の見通しをもつようにす</p> <p>z</p>	<p>活動の中で、「鑑賞」して気付いたよさを自分の作品のヒントとしたり、友達の作品と比較して自分の作品のよさを確かめたりしたことを、自分の言葉に置き換えて友達に伝えることによって、よさを一層味わうことができるようにする。</p> <p>学習カードを活用したふりかえりにより、自己の活動の変容を捉えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カード ・ 付箋